

# まんだら

通巻 190号 2024.1

中島地区コミュニティセンター  
熊木分館

電話/FAX 66-1567

k-kumaki@pub.city.nanao.ishikawa.jp



ごあいさつ

今年も残すところあとわずかとなりました。皆様には熊木分館の各種活動にご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

さて、3年間はコロナ禍の中で行事の中止や縮小しての取り組みでしたが、5月からコロナが「5類感染症」となり通常の体制で行事を企画しました。主なものとして防災訓練、敬老会、世代間交流、部外講師による歴史講話等を催し、多くの地域の皆様に参加、ご協力をいただきました。分館は人々のつながりが溶け込む地域の拠り所となるよう目指しており、日々ゲートボール場や子どもの広場(旧・中島児童館)の開放、加えてサークル活動(お茶、絵手紙、俳句、短歌等)、健康体操教室、ゆず味噌作り、キムチ作り、蓬莱作り、ミニ門松作りなど四季を通じて様々な集いに多くの方々に利用されております。

結びに、新年も分館活動に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げ、皆様のご多幸をお祈りいたします

熊木分館長 筆安知幸  
同職員 山下佳子

## 【事業報告】

### 《青少年育成(秋季合宿) 2023.11.18~19》

参加者は鹿島少年自然の家でアップルパイ作り、そば打ち体験の内容で1泊2日の体験合宿を行いました。

合宿には小学生、高校生、社会人ボランティア等、20名が参加し楽しく交流することが出来ました。

今後も、人と人がつながる事業を今後も続けていきたいと考えております。





### 《環境整備 2023.11.28》



熊木長寿会様 分館の雪吊り／  
環境整備ありがとうございました。

11月28日(火)熊木長寿会の皆  
様にお世話になりました。

男性の方は、植木の雪吊りを女  
性の方は、周辺の落ち葉をきれい  
に片づけていただきました。改め  
て御礼申し上げます。

### 《学習講座①(ゆず味噌づくり) 2023.12.5》

恒例のゆず味噌づくり講習会を開催しました。谷内の坪野さん指導の下、1センチ角に刻んだゆずとだし汁をミキサーでの攪拌したものを煮詰め、ゆずのペーストまで作るまで行います。

仕上がったペーストにご自宅の味噌を加えて、ゆず味噌にしたり、かぶの酢の物に入れて、ゆず風味に仕上げたりと色々アレンジができる便利な一品となりました。



### 学習講座②(蓬菜づくり) 2023.12.6》

こちらも恒例の蓬菜づくりです。

来年の干支は、辰年なので細かい部分もありましたので、1時間半～2時間半ほどかかりましたが、見ごたえのあるものに仕上がりました。



### 学習講座③(キムチづくり) 2023.12.13》

今年もキムチづくりを実施しました。当日は岡田 幸先生(中島地区)に教わりながら、キムチの素(ヤンニョム)を作り、大根やネギ、玉ねぎを切り、魚醤、にんにく、しょうが、りんご等沢山の材料を混ぜていきます。ヤンニョムが出来たら塩漬けした白菜の根元に具材をおきながら、全体に塗って出来上がりです。10日程熟成したら食べ頃を迎えます。





すべての材料を混ぜ合わせる。



白菜の根元に具材をおきながら、全体に塗る。

《学習講座④(ミニ門松づくり) 2023.12.17》

ミニ門松づくりは、中島町内の方どなたでも参加いただける事業です。

参加された皆さんは、慣れた手つきで手際よく作ることが出来ました。

今回は、外部団体(金沢ローターアクトクラブ)から事業参加の申し出があり、夏のプラネタリウム、秋の合宿、冬のミニ門松づくりの3事業に参加してくれ、ボランティアスタッフとして事業運営に物心両面のご支援をいただきました。



今回、門松づくりに参加協力していただいた金沢ローターアクトクラブの皆さんです。本当にありがとうございました。



年末年始お休みのお知らせ

12月29日(金)から1月4日(木)まで  
休館させていただきます

熊木分館/子どもの広場

## くまき里山咲論(サロン)講演会の開催

日時：令和5年11月24日(金) 19:00～20:30

場所：熊木分館(和室)

講演：演題 「熊甲社の歴史をめぐって」

講師 東四柳史明

金沢学院大学名誉教授、七尾市文化財保護審議会会長

穴水町長谷部神社宮司

参加人数 40名 (中島町内から多くの参加がありました。)

講演内容

古文書を基調に熊甲宮の起源とその時代背景やそれに伴う末社と集落、更には「二十日祭」の起源についてご講演を頂きました。

最初に所領背景から説明がありました。熊来院について北方は穴水の入り口を含む領域で「院」として役人がいた要衝の地であった。後に熊来荘として都からの主要地であった。末社の由来は荘園を構成する集落と関係が深い。

久麻加夫都阿良加志比古神社 (以下熊甲社)の起源は記録では「929年に藤原忠平等による延喜式を奏進する」とあり、その中の気多社と熊甲社は神社名が古来のまま続いており国内でも希少な神社である。また、『1224年 能登國熊来荘の立券文(京大所収)』が作成される。そこには「10人の結衆(坊さん)、8人の巫女さん、そして1人の神人」が居たと神仏習合が伺えた。1283年(鎌倉)神殿造立で地頭の藤原兼信の棟札が有りそこにも僧侶の名がある。

神様については仏教(形のある仏像)から形のない神様が仮の姿として現れた、すなわち権(仮)現である。元々、ご神体は山、大木、石などで象徴され、神像は存在しないが、熊甲社のご神体は神像(平安後期作、二本の木が一本の幹になった霊木座像)で有り、非常に珍しい。また、熊甲社に関係する要人には三条実香、熊来氏、一乗防、加賀藩の村井長頼の解説がありました。

二十日祭の「杵旗」の起源は江戸への出稼ぎ(当時80人ほど)人が伝搬した。当時は鎖国時代で有り、能登と韓国の交流はなかった。出稼ぎ人が江戸から韓流の旗を持帰り、次第に広まった。古文書の記録として『末世目覚草』中島今本屋二代佐助(現在の橋本家)に「1830年(文政13年8月)・・・前文略・・・江戸かせき人と奉納」などいくつかの記事がある。

熊甲社は能登の一の宮(気多大社)二の宮(中能登町)に次ぐ神社とのことです。社名も起源から変更無く、神像をご神体として、国内でも唯一の寄合祭り(杵旗祭り)を行っており、由緒ある神社であることを学びました。漢字の多い古文書の資料でしたが、近くの集落名や神社名、風土など身近な用語が多く解りやすく解説され親しみと興味を持って聞くことが出来ました。

